

2020年10月5日制定

## 1. 原稿の順序

(1) 原著論文（報文、ノート）、総説、解説、オピニオン、現場からの報告、ニュース、資料、その他

初めに和文と英文で表題、著者名、和文要旨、和文のキーワード、次に英文要旨、英文のキーワードを記載する。

1 ページ目の最下行にテキストボックスを置き、その中に表を組んで罫線を上だけに設置する。本文から1mm以上空ける。両端揃えで8pt、行間は固定値11ptとする。

この枠内に和文の所属、英文の所属を記載する。和文と英文の間で改行する。英語表記は斜体とする。なお、著者が外国語圏に所属している場合は和文所属部分を外国語で記述してもよい。改行後、連絡著者（corresponding author）のメールアドレスを記載する。

本文の緒言は英文要旨から1行あけて始め、ついで、材料と方法、結果、考察（または、結果と考察）、謝辞（必要な場合）、引用文献の順に記載し、そのあとに図表を付ける。

当該論文に係る事業名（経常研究、科研費、その他の研究資金等の制度名）は謝辞に記載する。謝辞、引用文献がない場合は記載不要とする。

(2) 依頼原稿および非会員による原稿（総説、解説、オピニオン、現場からの報告、ニュース、資料）は原著論文に準じて原稿を記載する。

## 2. 原稿の表記、記載文字・記号等

(1) 本文が和文の場合

- ・原稿は「Microsoft Word」で作成する。それによりがたい場合は研究会事務局等に相談する。
- ・用紙の大きさはA4判、上下左右に25mm以上の余白をとる。原則として1ページ51行、1行50文字とする。査読原稿には、ページごとに行番号を、各ページの中央下にページ番号を付ける。本文と図表を1つのPDFファイルにまとめる。査読終了後、受理原稿に関して修正が終了した原稿に関しては行番号を削除する。
- ・和文のフォントはMS明朝（10.0pt）、英文のフォントはTimes New Roman（10.0pt）を使う。文字を太字にする場合は「ボールド」を、斜字体は「イタリック」を、文字を下付きに配置する場合は「下付き文字」を、上付きに配置する場合は「上付き文字」を使う。
- ・和文は全角文字で入力する。なお、英字およびアラビア数字（0, 1, …, 9）は半角とする。
- ・句読点・括弧は全角の「,（コンマ）」、「。（まる）」、「（）（括弧）」とする。また、「・」、「?」、「～」、「%」も全角とする。
- ・「X」と「×」、「一」と「ー」、「一」と「一」、「1」と「l」などを区別して入力する。

(2) 本文が英文の場合

- ・原稿は「Microsoft Word」で作成する。それによりがたい場合は学会事務局等に相談する。
- ・フォントはTimes New Roman（10pt）を使う。文字を太字にする場合は「ボールド」を、斜字体は「イタリック」を、文字を下付きに配置する場合は「下付き文字」を、上付きに配置する場合は「上付き文字」を使う。
- ・英文はアラビア数字（0, 1, …, 9）を含めて半角文字で入力する。
- ・句読点・括弧は半角の「,（コンマ）」、「.（ピリオド）」、「（）（括弧）」とする。

## 3. 表題、副表題、著者名、所属機関、受理日

(1) 全ての原稿表題は 16pt で記載し、原則として主題と副題に分けない。分けるときの副題は 10.5pt でその下に記載する。

(3) 著者名の右側に「1」のように番号をつけ、1 ページ目の最下行にテキストボックスを置き、その中に表を組んで罫線を上だけに設置する。本文から 1mm 以上空ける。両端揃えで 8pt、行間は固定値 11pt、和文と英文の間で改行。英語表記は斜体とする。なお、著者が外国語圏に所属している場合は和文所属部分を外国語で記述してもよい。改行後、連絡著者 (corresponding author) のメールアドレス (投稿後、数年間は使い続けられるもの) を記述する。すべて半角で、コロン (: ) のあとに半角スペースを挿入する。ハイパーリンクにしないこと。

なお、組織等に所属しない著者等 (個人、農家、高校生等) からの投稿の場合、可能な場合連絡先を記載する

---

<sup>1</sup>△△県整備部都市計画課 <sup>2</sup>○○大学工学部 <sup>3</sup>College of Agriculture, University of Kaigai

<sup>1</sup> Maintenance Division City Planning Section, Sankaku Prefectural Government <sup>2</sup> Faculty of Engineering, Marumaru University <sup>3</sup> College of Agriculture, University of Kaigai

Corresponding Author\*: hanako\_keikaku@eng.marumaru.ac.jp

年 月 日受理

#### 4. 要旨, キーワード

(1) 要旨は改行しない。また図表や文献を引用しない。文字数は 600 以内とする。なおノートでは 100 文字程度とする。

(2) キーワードは 50 音順とし、5 語までとする。検索に使われやすい用語を用いる。

#### 5. 英文の表題、要旨、キーワード

(1) 英文表題 (Title) は 10.5pt、折り返したらセンタリングする。英文副題は 9pt とする。表題も副題も頭は大文字 (前置詞等を除く) とする。

(2) 要旨 (Abstract) は和文の要旨と同様の形式とし、230 語以内とする。なおノートでは 50 語程度とする。

(3) キーワード (Key words) は和文のキーワードと同様の形式とする。ただしアルファベット順とし、いずれも大文字で始める。

#### 6. 本文

(1) 本文は、緒言、材料と方法、結果、考察 (または、結果と考察)、謝辞 (必要な場合)、引用文献の順とする。なお、「緒言」の項目は記さない。各項目の見出し字句は行の中央に書く。すべての段落の先頭は 1 字あける。

(2) 各項目中の大見出し、中見出しおよび小見出しは、それぞれ 1、2、3、…、(1)、(2)、(3)、…、i)、ii)、iii)、…のように順次区別する。中見出しまでは見出し字句をつけ、改行して文章を書き出す。小見出しは見出し字句をつけ、改行して文章を書くことを原則とするが、見出し字句のあとに「:」をつけて改行しないで文章を続けてもよい。

(3) 文体ひらがな漢字混じりの横書き口語文とし、できるだけわかりやすい表現にする。

(4) 術語以外はなるべく常用漢字を用い、かなは現代かなづかいとする。

(5) 英数字には半角文字を用いる。

(6) 数字は一般にアラビア数字を用い、漢数字は普通の字句にのみ用い (例: 二三の実例、十徳豆、農林 10 号、リン酸三カルシウム)、ローマ数字は番号を示す場合に限る。

- (7) 外国人名は欧文とする。ただし、中国人名などは漢字でもよい。本文中の人名には敬称をつけない。なお、術語になっている外国人名はカタカナ書きとする（例：ケルダール法、ストークスの法則）。
- (8) 外国地名はカタカナを原則とするが、必要に応じて欧文を用いる、または併記する。中国などの地名は漢字でもよい。日本の地名も読み方の周知されていないものはひらがなを併記する。
- (9) 量を表す文字はイタリック体にする（例： $PV=nRT$ ）。
- (10) 専門用語は原則として文部科学省学術用語審議会編「学術用語集」、および各学協会が責任編集した学術関連用語集による。普通用いられる外国語の術語、物質名などはカタカナで書く。
- (11) 文章中においては、物質名はなるべく化学式を用いないで名称を書く（例： $HCl$ 、 $C_2H_5OH$  と書かないで、塩酸、エタノールと書く）。
- (12) 略字・略号を使うときは、初めにそれが出る箇所で正式の名称とともに示す [例：ペンタクロロフェノール (PCP)、アデノシン三リン酸 (ATP)、陽イオン交換容量 (CEC)]。
- (13) 原則として、動植物の名称はカタカナ書きにし、最初の記載の場合にのみラテン語による学名を付す。学名はイタリック体にする。
- (14) 数量の単位は原則として SI 単位とする。数値と単位の間には半角スペースを入れる。時間は 13 時間 6 分のように書き、時刻は 13 時 6 分または午後 1 時 6 分のように書く。
- (15) 感謝の言葉（謝辞）などは本文末尾につける。
- (16) 研究が官公庁、財団、企業などによる研究費補助金、奨励金、助成金などを受けて行われた場合には、その旨を謝辞に付記する。

## 7. 図・表

- (1) 図・表は、和文では「図 1」、「表 1」、英文では Fig. 1、Table 1 などとする。写真は図に含める。
- (2) 図・表は本文中に入れず、文末に図表をまとめる。
- (3) 投稿の際は JPEG の図表ファイル形式（カラー画像の解像度 350dpi 以上、白黒画像の解像度 200dpi 以上）で投稿する。
- (4) 図・表およびそれらの表題で使うフォントは、和文では MS 明朝、英文では Times New Roman とする。句読点は、和文では全角「，（カンマ）」、「.（ピリオド）」、英文では半角「，（カンマ）」、「.（ピリオド）」とする。
- (5) 表題は、図では図の下部に、表では表の上部にともに中央に配置する。
- (6) 図・表が英文の場合、タイトルおよび図・表中の英文や語句は、最初の文字を大文字とし、以下は小文字とする。
- (7) 図・表で分析結果の有意差検定に関する記述をする場合は、サンプル数は  $n$ 、危険率  $p$  とそれぞれイタリックで表記する。

## 8. 引用文献

- (1) 文献は本文のあとにまとめて著者名のアルファベット順に書く。本文中の引用箇所では、著者名のあとに発表年を括弧書きで添えるか [例：原・土屋 (2007) は...、Bertsch and Seaman (1999) によれば...]、文章の途中または末尾に著者名と発表年を括弧書きで入れる [例：... が明らかにされている (Kookana et al., 1994； 笹木ら, 2007)]。特許は、発明者(あるいは出願人)(発行年)発明の名称、特許文献の番号を記載する。未発表・未受理のもの、私信は引用文献としては記載しない。
- (2) 和文誌の略名は農学進歩年報の用例により、欧文誌の略記は Chemical Abstracts による。
- (3) 書き方の様式は次の例による。

### 雑誌

藤川智紀・高松利恵子・中村真人・宮崎毅 2007. 農地から大気への二酸化炭素ガス発生量の変動性とその評価. 土肥誌, 78, 487-495.

Panno, S.V., Hackley, K.C., Kelly, W.R., and Hwang, H. 2006. Isotopic evidence of nitrate sources and denitrification in the Mississippi River, Illinois. J. Environ. Qual., 35, 495-504.

### 逐次刊行物

Dahlgren, R.A., Saigusa, M., and Ugolini, F.C. 2004. The nature, properties and management of volcanic soils. Adv. Agron., 82, 113-182.

### 単刊書の章

松森堅治 2005. 地理情報システムを用いた窒素負荷予測モデル. 波多野隆介・犬伏和之編著・環境負荷を予測する, p. 60-79. 博友社, 東京.

Roberts, D., Scheinost, A.C., and Sparks, D.L. 2003. Zinc speciation in contaminated soils combining direct and indirect characterization methods. In H.M. Selim and W.L. Kingery (ed.) Geochemical and hydrological reactivity of heavy metals in soils, p. 187-227. Lewis Publ., Boca Raton.

### 単刊書 (引用ページを示す場合)

西尾道徳 2005. 農業と環境汚染, p. 148. 農文協, 東京.

Kyuma, K. 2004. Paddy soil science, p. 66. Kyoto Univ.Press, Kyoto.

### ウェブ情報

野菜茶業研究所 2006. 野菜の硝酸イオン低減化マニュアル.

<http://vegetea.naro.affrc.go.jp/joho/manual/shousan/index.html> (2020年10月4日閲覧)

### 特許

鎌田淳・丸岡久仁雄・畑克利・浅野智孝・池田隆夫・東野信行・飯塚美由紀・富樫直人 2010. 有機肥料およびその製造方法, 特開 2010-241637(発明者が3名以上の場合は省略も可)

## 9. 会誌に掲載する PDF ファイルの作成に関して

査読が終了し受理された原稿に関しては、指摘事項の修正等が終わった場合、その PDF 版を作成し、編集委員会へ送付する。レイアウトは著者がとくに希望する以外は会誌原稿例に準拠する。

なお、基本的な様式は以下とする。

(1) 表題、著者名、所属機関・所在地、要旨、キーワードは会誌原稿例に準拠し1段構成とし、1行あたりの文字数は50字を上限とする。なお、行数について上限は設けない。

(2) 本文以下も会誌原稿例に準拠し1段構成とし、1行あたり50文字を上限とする。また、本文以下の1ページあたりの行数は51行を上限とする。

付表

SI 単位			倍数に関する接頭語		
量	名称	単位記号	倍数	名称	記号
長さ	メートル	m	10 <sup>18</sup>	エクサ (exa)	E
質量	キログラム	kg	10 <sup>15</sup>	ペタ (peta)	P
時間	秒	s	10 <sup>12</sup>	テラ (tera)	T
電流	アンペア	A	10 <sup>9</sup>	ギガ (giga)	G
温度	ケルビン	K	10 <sup>6</sup>	メガ (mega)	M
物質質量	モル	mol	10 <sup>3</sup>	キロ (kilo)	k
光度	カンデラ	cd	10 <sup>2</sup>	ヘクト (hecto)	h
平面角	ラジアン	rad*	10	デカ (deca)	da
立体角	ステラジアン	sr*	10 <sup>-1</sup>	デシ (deci)	d
*補助単位			10 <sup>-2</sup>	センチ (centi)	c
			10 <sup>-3</sup>	ミリ (milli)	m
			10 <sup>-6</sup>	マイクロ (micro)	μ
			10 <sup>-9</sup>	ナノ (nano)	n
			10 <sup>-12</sup>	ピコ (pico)	p
			10 <sup>-15</sup>	フェムト (femto)	f
			10 <sup>-18</sup>	アト (atto)	a

  

SI 単位と併用される単位	
量	単位 (記号)
時間	分 (min), 時 (h), 日 (d), 年 (yr)
平面角	度 (°), 分 (′), 秒 (″)
体積	リットル (L)
質量	トン (t)
面積	アール (a)

固有の名称を持つ組立単位の例

量	名称	記号	定義
周波数	ヘルツ (hertz)	Hz	s <sup>-1</sup>
力	ニュートン (newton)	N	kg ms <sup>-2</sup>
圧力	パスカル (pascal)	Pa	Nm <sup>-2</sup>
エネルギー	ジュール (joule)	J	Nm
仕事率	ワット (watt)	W	J s <sup>-1</sup>
電圧	ボルト (volt)	V	WA <sup>-1</sup>
電気抵抗	オーム (ohm)	Ω	VA <sup>-1</sup>
温度	セルシウス度 (degree Celsius)	°C	°C = K - 273.15
放射能	ベクレル (becquerel)	Bq	s <sup>-1</sup>
	キュリー (curie)	Ci	s <sup>-1</sup>
濃度	モル濃度 (molar)	M	mol L <sup>-1</sup>

作物学分野で使われる測定量の表示法の例

量	表示法
収量	[P] g m <sup>-2</sup>
	[A] kg ha <sup>-1</sup> , Mg ha <sup>-1</sup> , t ha <sup>-1</sup>
葉面積比率	m <sup>2</sup> kg <sup>-1</sup>
	[P] g m <sup>-2</sup>
施肥量	[A] kg ha <sup>-1</sup>
	[P] g kg <sup>-1</sup>
植物体水分含量	[A] %
	[P] kg kg <sup>-1</sup> , m <sup>3</sup> m <sup>-3</sup>
土壌水分含量	[P] kg kg <sup>-1</sup> , m <sup>3</sup> m <sup>-3</sup>
光エネルギー強度	W m <sup>-2</sup> , J m <sup>-2</sup> s <sup>-1</sup>
光量子密度 (光合成有効放射速度)	μmol m <sup>-2</sup> s <sup>-1</sup>
光合成, 呼吸速度	[P] μmol m <sup>-2</sup> s <sup>-1</sup>
	[A] mg dm <sup>-2</sup> h <sup>-1</sup> , mg m <sup>-2</sup> s <sup>-1</sup>
蒸散速度	[P] g m <sup>-2</sup> s <sup>-1</sup>
	[A] g dm <sup>-2</sup> h <sup>-1</sup>

注) [P] は望ましい表示法, [A] は許容されるべき表示法を示す。